2762 SANKO MARKETING FOODS

2026年6月期通期決算

増収で赤字縮小、構造改革を着実に推進

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
10,570 百万円	▲635 百万円	▲618 百万円	▲793 百万円
+9.2%	—	—	—

今回のポイント

❶ 売上高は前期比9.2%増の105億70百万円

綜合食品とのシナジーと海外輸出で水産流通が伸長し増収。飲食はアカマル屋が顧客ニーズを取り込み成長が続く。事業再構築コストが先行し、営業損失は6億35百万円と微減。

❷ 27/6期は営業損失30百万円へ大幅縮小計画

売上高は前期比0.3%増の106億円を計画。収益変動の大きい漁業や沼津の水産加工を一部撤退・縮小し、飲食事業へ経営資源を集中。下期の黒字転換を見込んでいる。

❸ ネットワーク型水産6次化モデルへ移行

全工程を自社で保有する体制から、外部提携で補完する体制へ転換。日常食うどん業態の路面展開やデリバリー強化も推進する。中期経営計画は27年2月に発表予定。

事業概要

串焼きと煮込みが名物の大衆酒場「アカマル屋」や「焼肉万里」等を柱に首都圏を中心に飲食店を展開。豊洲の大卸・綜合食品等を擁し水産6次産業化を推進。27/6期からネットワーク型水産6次化モデルへ移行する。

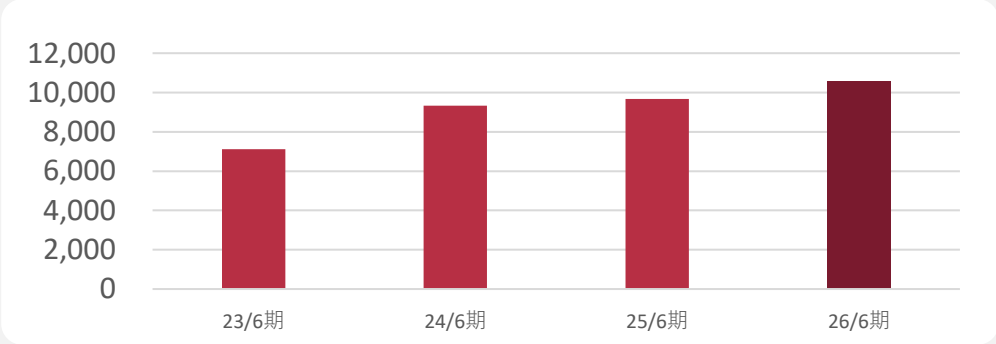
通期業績 前期比較

単位：百万円

	25/6期	26/6期	増減額
売上高	9,679	10,570	+891
営業利益	▲666	▲635	+31
経常利益	▲647	▲618	+29
当期純利益	▲816	▲793	+23

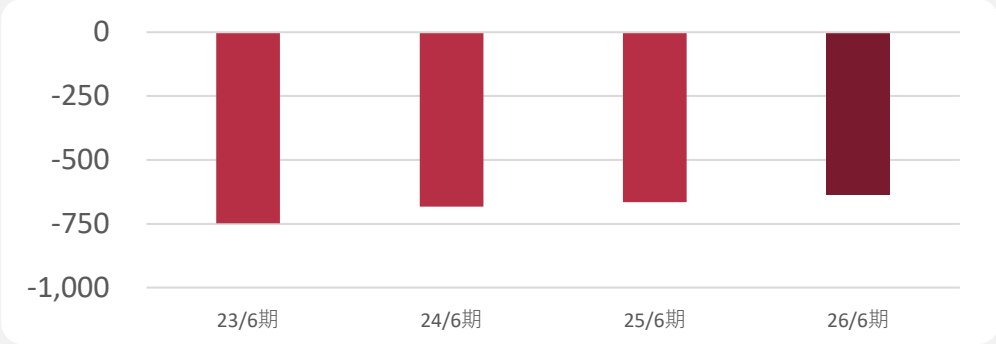
売上高推移（直近4期）

単位：百万円



営業利益推移（直近4期）

単位：百万円



今期業績予想

単位：百万円

	26/6期	27/6期(予)	前期比
売上高	10,570	10,600	+0.3%
営業利益	▲635	▲30	—
経常利益	▲618	▲40	—
当期純利益	▲793	▲60	—

詳細はこちら

平林社長に聞く

Q：2026年6月期の業績について
飲食事業は客数が1.6％減少した一方、客単価が6.3％上昇し、既存店売上高は増加しました。ただ、事業再構築に伴う出店・閉店・業態転換費用が先行し、営業利益は下方修正しました。

Q：2027年6月期及び中期的な見通し
売上拡大より収益構造の再構築を優先します。水産事業ではアセット型からネットワーク型の水産6次化モデルへ移行し、漁船や加工場の維持費を削減します。中間期は営業損失を見込みますが、下期の黒字転換と来期以降の黒字基調定着を目指します。

Q：新規出店計画について
「アカマル屋」1店舗、水産6次化店舗1店舗、うどん業態2店舗の出店を計画しています。「うどん038」は小規模・少人数運営により低コストを実現し、店舗営業利益率10％程度を目指します。

Q：今後の経営方針と株主へのメッセージ
飲食事業を強化し、水産事業とのシナジーを高めます。経営状況を的確に把握し、環境変化にも迅速に対応します。人材・情報・ネットワークを活かした選択と集中により、着実に業績を立て直し、株主の期待に応えていきます。

詳細はこちら